

令和7年長谷山彰理事長年頭挨拶

明けましておめでとうございます。

日頃から本機構の発展のため、ご尽力頂いている機構本部並びに三大学の教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。新しい年が皆様にとって良い年となるようお祈り申し上げます。

北海道国立大学機構は、令和4年4月の発足以来、経営改革と財政基盤の強化、商農工の分野融合的な教育研究と産学官金の連携で北海道を支える人材の育成と北海道の産業経済の発展に貢献することを目標に活動を続けてきました。

昨年は、ヒトづくり・モノづくり基金の創設、産学官金連携統合情報センター（IIC）の設立など新しい取り組みが始まり、教育イノベーションセンター（ICE）、オープンイノベーションセンター（ACE）の活動もより活発になりました。

ICEでは令和6年度、相互提供科目の履修者が三大学合わせて約8,900名、科目提供大学以外の大学所属の学生の履修者も前年から倍増して約2,200名になりました。

昨年10月には、初めて三大学の「硬式野球部交流戦」が小樽商科大学グラウンドで開催されました。私も試合を観戦しましたが、白熱したプレーや、小樽名物にもなっている商大応援団のエールなどで、試合は大いに盛り上がり、学生の交流の輪が広がりました。

年末には、小樽朝里川温泉スキー場で開催された相互提供科目「健康スポーツⅡc」のスキー実習での交流会にも参加しましたが、学問分野の異なる三大学の学生が積極的に交流し、互いに刺激を受ける良い機会になったと感じました。

大学祭への学生団体の相互参加も始まっており、今後も、様々な学生交流イベントが増えてゆくと思います。

多様な経験を積み豊かな学生生活を送った幅の広い人材を世に送り出すこと

は教育機関としての大学の使命ですから、教職員の皆様にはさらなるご協力をお願い致します。

また、人生 100 年時代における学び直しや多様な学習ニーズに応える「単位累積型学位取得プログラム」の発足に向けて検討チームが設置され、準備が進んでいます。

リカレント教育に関しては、自治体や産業界と協力して北海道リカレント教育プラットフォームの構築を進めており、道内各地に自治体と連携したサテライトを設置し、すべての道民に高等教育の機会を提供することをめざすユニバーサル・ユニバーシティ構想とも連動して教育の提供を進めていきます。

ACE では、新たな共同研究の創発、研究者の交流、広報活動の充実などさまざまな取り組みが進んでいます。

共同研究に関しては、ACE として初めて特許出願が行われました。

三大学の研究者が参加する萌芽的、挑戦的な分野融合の研究を ACE が補助するオープンイノベーション促進共同研究では、令和 6 年度は 10 件採択しましたが、これまで支援した活動の中から、自治体等との新たな共同研究が生まれるなど、着実な進展が見られました。

研究者交流については、三大学の教員がお互いの研究内容を知り理解を深める「教員紹介ランチタイム Web セミナー」が新設されました。異分野の研究者による共同研究の創発を促進するユニークな試みで、今後の継続的な発展を期待しています。

また、ACE の認知度向上に向けて、活動を象徴するロゴマークが作成され、道内の各種イベントのほか、東京で開催の「エコプロ 2024」など道外のイベントにも積極的に出展して、ACE の活動を広くアピールしました。

さらに、昨年 12 月には札幌・桑園に新設されたエア・ウォーターの森に ACE の札幌サテライトが開設されました。同居する行政機関や産業界とのコミュニケーションが深まり、研究が社会実装へと発展すること、また ACE の活動内容の発信拠点となることを期待しています。

昨年の4月には、機構に、新たに産学官金連携統合情報センター（IIC）が設置されました。

IICは、多様なステークホルダーのワンストップ窓口となり、ICE、ACEと連携して人材育成と産学共同研究の拡大発展をめざします。

現在、産学官金が連携して地域の課題を洗い出し、解決を図る枠組みとして、「北海道広域連携プラットフォーム（HRP）」の構築準備が進んでいます。

そのほか、「IIC News Letter」の配信を開始し、機構の取り組みや全国の産学官金連携の好事例等を定期的に紹介しています。

こうした取り組みを通じて、産学官金連携による共同プロジェクトの増加、外部資金の獲得、機構三大学の教育研究活動の強化、そして北海道の経済産業の発展に貢献することをめざします。

以上、三大学の連携による機構のさまざまな取り組みについて紹介しましたが、機構が発展してゆくためには、何よりもその基盤となる三大学それぞれの教育研究の充実が前提です。

三大学の発展が即機構の発展であり機構の発展が即三大学の発展であることが理想の姿です。

私も皆様とご一緒に北海道国立大学機構発展のために挑戦を続けてゆく覚悟でおりますので、どうぞ一層のご協力をお願い申し上げます。

結びに一言申し上げます。

健康一番、仕事は二番。教職員の皆様におかれては、くれぐれも健康に留意され、お元気で日々の業務に取り組んでいただきます様お願いして、年頭の挨拶といたします。